

## 令和3年度「卒業証書授与式」学校長式辞

3月半ばを迎え、すっかり春の陽気となりました。

本日ここに、令和3年度、第73回福井県立高志高等学校「卒業証書授与式」を挙行するにあたり、PTA会長、小林一朗様、同窓会会長、坪井良彰様をはじめとす  
ご来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業生の皆さんを祝福できますことは、  
この上ない喜びであります。卒業生、教職員を代表いたしまして、心からお礼申し上げ  
ます。

ただ今、卒業証書を授与した238名の皆さん、卒業、おめでとう。

今日まで育ててくださったお父様、お母様、家族への感謝の気持ちを忘れることな  
く、高志高校の卒業生であることに自信と誇りを持って、それぞれのフィールドで、  
幸せな人生を歩んでください。

皆さんへのお祝い、今後の人生への期待の言葉は、生徒会誌「みどり葉」の巻頭言  
にも書きました。友達の原稿、学年主任、ホーム担任の先生の「贈る言葉」とともに、  
巻頭言にも目を通してください。

ここでは、文字数の関係で、「みどり葉」に書ききれなかった3つのことについて  
話します。

1つ目は、「人生は常に途中経過」ということです。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が世界中を覆いました。そのよう  
な中、皆さんは自らの夢と目標に向かって努力の日々を過ごし、第六波の感染拡大が  
心配される真ただ中で、大学入学共通テスト、私立大学・国公立大学の受験をやり  
切って、本日卒業式に臨んでいます。

厳しい状況の中、真摯に努力を重ねた皆さんに、最大限の敬意を表します。

今年度の卒業式は、全国各地に散らばって大学受験に挑む皆さんの感染リスクを軽  
減するため、前期日程の合否が判明し、そして、後期日程の受験が終わった、異例の  
タイミングでの卒業式となりました。

第1志望の大学に進学する人、第2志望以下の大学に進学する人、もう1年頑張ろ  
うと心に決める人等、皆さんは4月からの生活を選択しようとしています。もう決め  
た人もいるかも知れません。

どのような進路を選ぶにしても、皆さんは、そこでしか見ることのできない景色を  
見て、そこでしか出会えない人に出会うことになります。

進路選択に絶対の正解はありません。

合否は高校3年時点での合否にすぎないし、進路選択も高校3年時点での選択にすぎ

ません。その選択を「正解」にするのは、これからの皆さんのものの考え方、その結果としての生活の仕方によります。

第2志望以下の大学に進むことになっても、堂々とその道を歩み、その環境を最大限に生かすことができれば、それが、貴方にとっての「正解」になります。

第1志望の大学に進んでも、理想と現実のギャップに直面することだってあります。

これから皆さんが進む道で出会う景色や出会う人々は、すべてが神様からの贈り物です。神様からの贈り物を生かす努力を、どれくらい誠実に続けるかで、高校卒業時の決断の価値、人生の厚みや幅といったものが決まるといいと思います。

考えてみれば、人生は選択の連続です。

今日の晩御飯に何を食べるかという選択から、どのような職業に就こうとするか、誰と人生をともにするか、あるいは1人で生きていくかという選択に至るまで、私達の人生は選択の連続です。

大切なことは、自分の選択に責任を持ち、その結果を自ら受け止める覚悟を持つこと、そして、その時その時の、選択の機会に適切な選択をして、自らの人生を幸せな人生へと、軌道修正していくことです。

人生は常に途中経過です。

幸せな人生かそうでないかは、最後の最後まで分からない。だから人生は面白い。今日はまず、そのことを申し上げます。

2つめは、「世の中を変える人になってほしい」ということです。

令和4年度の入学生から、高志高校は「探究創造科」として新たな歴史を刻み始めます。

「探究」とは、自らの興味・関心を大切に、積極的に・自律的に行動をおこし、成功と失敗を繰り返すプロセス自体も楽しんで、人として成長し続けようとする心構えや態度を表しています。

「創造」、これは本校が校訓の1つにも掲げていますが、新しいものや文化を創るほか、今ある問題を解決しようとする意思や行為を表しています。

高志高校は、「社会に貢献するリーダー」、一歩踏み込んだ言い方をすると、「未来社会・持続可能な社会の創り手となるクリエイティブなリーダー」を育てたいと考えている高校です。

そして、このことは、来年度以降の入学生だけでなく、在校生、そして皆さん方卒業生にも当てはまることです。

ロシアによるウクライナ侵攻という、歴史の教科書に載るような出来事が進行中です。そこまでではなくても、世界各地で紛争が続いています。国境を越えてひろがる環境問題や、感染症の問題があります。先進国と途上国との経済格差もあります。

国内に目を転じて、人口の都市集中と地方の衰退、貧困や介護の問題等、様々な課題が山積しています。

世の中は、誰かが問題を解決してくれることを、世の中を良い方向に変化させてくれることを待っています。

誰かに任せるのではなく、皆さん自身で、問題解決に乗り出しましょう。

皆さん自身が、世の中を良い方向に変化させる人になりましょう。

そして、困っている人を支えられる人、あなたの近くにいる人を笑顔にできる人、なってください。

3つ目は、「これからも母校を応援してほしい」ということです。

皆さんの卒業証書には、これまで卒業証書を渡した多くの先輩方から引き継いだ通し番号がついています。

高志高校第31回生の私の番号は、13119号でした。第40回生だった学年主任の矢納先生の番号は、16961号でした。第73回生の最後を締めくくる七組の渡邊さんの番号は、30697号です。皆さんは、この後の同窓会入会式をもって、3万人を超える高志高校の同窓生の仲間入りをすることになります。

皆さんは、皆さんの高校生活が、同窓会による多くの支援に支えられていたことを、知っていたでしょうか。自習室のキャレルデスク、学習室の机や椅子、図書館前廊下の新聞書見台、部活動のトレーニング機器、除雪機など、学校生活の至るところに、同窓会の先輩方による支援の品々が存在しています。

「みどり葉会」という同窓会の名前の通り、卒業生と在校生のネットワークが、瑞々しい生命力をもって、世界中に広がって行ってほしい、皆さんにも、その一翼を担ってほしいと、これからも母校を応援してほしいと、切に願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。

この世に生を受けて以来、お子様が成長するにしたがって、保護者の皆様は、お子様が病気や怪我をしないか、心配の日々を過ごしてこられたのではないのでしょうか。高校卒業の日を迎え、皆様のお喜びはいかばかりかと存じます。

また、これまで、本校にお寄せいただきました、格別のご理解と、ご協力に対しまして、教職員を代表して、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生諸君、お別れのときです。

皆さんの人生に幸多からんことを、心からお祈りして、式辞といたします。

令和4年3月15日

福井県立高志高等学校長 吉田 繁